

竹澤恭子 30年目の挑戦

特別インタビュー

満を持して臨むベートーヴェン・ソナタ。対極にある第9番と第10番を一夜で弾くことは「挑戦」と語る。デビュー30年、円熟の時を迎えてなお、真摯に挑戦を続ける竹澤恭子さんにお話を伺いました。



竹澤恭子 | ヴァイオリン

1986年インディアナポリス国際ヴァイオリン・コンクールで圧倒的な優勝を飾り、以降、NYフィル、シカゴ響、ロンドン響、ロイヤル・コンセルトヘボウ管など世界の主要オーケストラと共演。アスペン、ルツェルンといった世界的な音楽祭にも参加するなど幅広い活躍を続ける。

© 松永学

◆変化を求め続けた30年

私は演奏に臨むとき、基本的なことですが自分の100%を出し切ること、音楽を通してその時その時のお客様とコミュニケーションを取ることを大切にしています。言葉を発するわけではないのに、舞台上にいるとお客様の雰囲気伝わります。いつも思うのは、演奏を通じてお客様とコミュニケーションを取ることが喜びであり、この喜びが今までの自分を支えてくれました。音楽家として生きていく上で、何十年経とうと「これで良い」ということはありません。日々のいろいろな経験が自分の演奏に反映されるので、柔軟性を持って接して、吸収する演奏家でありたいと思います。私は常に変化している人に憧れるので、自分もそうでありたいと思います。演奏家人生はまだまだ続くので、30年目はひとつの区切りであり通過点ですね。

◆ヴァイオリンを始めたキッカケ

育ったところがスズキメソッドの盛んなところで、いとこたちも含めて、周りにヴァイオリ

ンを習っている子が多い環境でしたので、私もごく自然に手にしていました。小学校低学年の時、メソッドの海外演奏旅行があり、お客様の情熱的な反応や拍手がとても衝撃的で、それをまた体験したくて続けられたのだと思います。小学校の終わってから小林健次先生につき、そのご縁でドロシー・ディレイ先生に師事するためジュリアード音楽院に進むことになりました。いつか「カーネギーホールのような大ホールで演奏したい」「アメリカ5大オーケストラと共演したい」と夢見ていましたが、まさか留学して2年目で叶うとは思っていませんでした。

◆コンクールの優勝がターニングポイントに

留学後に受けた国際コンクールで優勝したのですが、副賞として全米でのコンサートが40公演！もありました。毎回の公演準備から飛行機の手配、時差に伴う体調管理など、目まぐるしい日々についていくのが精いっぱいでした。勉強中心の生活からいきなりプロフェッショナルの活動が始まったのですが、ちょうどその時期、ディレイ先

生から「プロフェッショナルになるとはどういうことか？」というレッスンも受けていたので、この経験で多くを学んだと思います。

◆今回のプログラムについて

バルトークは私のキャリアのスタートとなった作曲家です。無伴奏ソナタは難曲ですが、自分を振り返る機会と思って選曲しました。ブロッホはユダヤ人作曲家で、ニューヨーク時代にもよく練習していました。「パール・シエム」は3曲から成る曲ですが、3曲並べて弾かれる演奏会はあまりないと思うので、ぜひ聴いていただきたいです。そして、ベートーヴェンのソナタ第10番はいつか挑戦してみたいと、共演ピアニストのエドアルドと以前から話していました。第9番「クロイツェル」のような壮大で感情的な曲想とは打って変わって、「クロイツェル」を乗り越えたような穏やかさがあり、特別な位置づけのソナタだと思っています。一夜のプログラムの中で、その対比をお楽しみいただきたいと思います。



Youtube チャンネルで
スペシャルインタビュー
ムービー配信中！



www.youtube.com/user/KioiHall

竹澤恭子 ヴァイオリン・リサイタル 2018年 11月 8日 ④ 19 時開演

紀尾井ホール

ベートーヴェン
バルトーク
ブロッホ
ベートーヴェン

ヴァイオリン・ソナタ第10番 長調 Op. 96
無伴奏ヴァイオリン・ソナタ Sz. 117 BB 124
パール・シエム
ヴァイオリン・ソナタ第9番 長調 Op. 47 「クロイツェル」

料金 S席6,500円 A席4,000円 学生A席2,000円(税込)

紀尾井ホールウェブチケット <http://www.kioi-hall.or.jp>

紀尾井ホールチケットセンター 03-3237-0061(10時~18時/日・祝休)